

SHIN CLUB 160

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「MARKS&WEB 本社ビル」撮影 :Shinsaku Kato

今月のトーク/monthly talk

時間をかけること

今月の写真は、昨年、目黒区東山に建ちあがった、マークスアンドウェブの本社ビルです。

通りからは木々の緑を通して、ショールームの木製の棚に陳列された商品が顔をのぞかせています。日が暮れると、ライトアップされた木々が、昼間とはまた違った雰囲気建物を与えています。枕木のアプローチが訪れる人を誘い、オープンなスペースが町並みになじんでいます。さらに緑が成長することで、特別な空間となることでしょう。

今月の「Frontline」には、宮大工の菊池恭二氏をお迎えしました。「法隆寺の鬼」と呼ばれた、故西岡常一棟梁の元で修行、薬師寺の金堂、西塔などに携わりながら、社寺建築を学び、今、全国各地の神社仏閣の建立や文化財建造物の保存修理を指揮し、弟子の育成にも余念がありません。2007年NHKの「プロフェッショナル『仕事の流儀』」にご出演されたので、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。その修行の道は著書『宮大工の育て』(祥伝社新書)で詳しく語られています。なかでも人を育てるポイントは「教えない」ことだ、とおっしゃっています。大工の修行では手取り足取り教えるのではなく、「なぜ、こうなるのだろう？」と弟子がうずうずしてくるのを待つということが大事なのだと言います。また大工は木の「癖」を読むことも大事な仕事で、覚えの早い子、遅い子がいるように、人にも木と同じく、「癖」があり、その癖を活かしながら、人を育て、使うことが名棟梁の条件だということです。

ダイナミックな社寺建築の大工の世界の魅力、その技術は一朝一夕に身につくものではない、と改めて感服させられます。そして、時間をかけて一途にひとつの仕事に打ち込まれてきたことで「他の分野のプロの方たちとも相通じるものが生まれる」と菊池さんは言います。

今、日本の山林も貴重な建築木材が不足しているそうです。薬師寺金堂、西塔の再建を支えたのは台湾の檜です。樹齢2000年、2500年のものを西岡棟梁が調達したとのことですが、今ではもう台湾政府が森林保護のために伐採を禁止していますので、それもなくなりました。

社寺建築は、日本の木の文化を象徴するものであり、それを育てていくには、樹齢数百年の檜は欠かせないそうです。日本の文化財を維持していくには、なんとしても国産材を確保していかなければならないということです。

目先の数年、数十年ではなく、数百年を見越した建物の修復、そのような時間の流れを捉えていた先人たちの心を、私たちはもう一度思い返してみる必要があるのではないのでしょうか。

樹木と一体になった建物でブランドの世界観を表現

■ 樹木を育てる、建物を育てる

全国展開しているデイリープロダクトのブランドの本社ビルである。本社としての機能を満たしつつ敷地内に積極的に樹木を計画している。建物を引立てるために緑を植えるのではなく樹木を引立てるために建物の形状や素材を選定した。建物の完成から月日を重ねて、樹木が青々と茂り緑と建物が一体となって地域に溶け込む様子がブランドの表情になることを目指している。

■ 全ての部屋から庭の緑を感じる

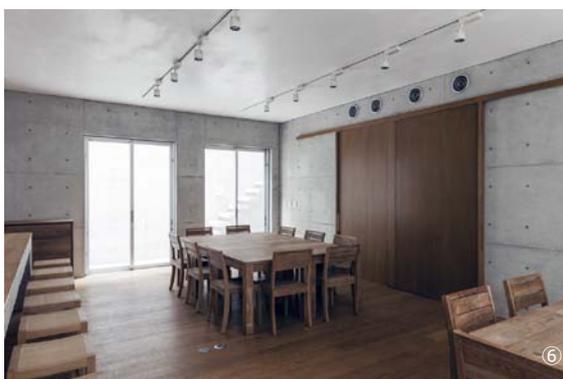
建物を S 字型に配置して南と北に庭を設けることで、全ての部屋から庭の緑や風を感じるように計画している。社員全員が同じ緑を日々眺めることで、季節の変化や樹木の成長する様子を一緒に楽しめるようにということである。

外壁には庭の樹木を引立てる仕上げを検討した結果、本美型枠を使用した。杉板の木目と均一に並んでいる窓が背景となって緑を引立てる。いかにも「本社ビル」という感じではなく、建物が樹木の引き立て役となって存在し、緑と建物が一体となって周辺環境に馴染んでいる様子が「マークスアンドウェブ」の本社ビルらしいと思う。

逆に、室内の壁は化粧型枠のコンクリート仕上げにしている。きっちりと目地割りをしたコンクリートが、柔らかな樹木の姿を、より引き立てている。

南側の庭はショップや会社のアプローチ通路であるとともに、地域に開かれた庭として計画している。

(大橋渉氏 談)



所在地：目黒区
 構造：RC 造
 規模：地上 3 階、地下 1 階
 用途：事務所
 設計・監理：大橋渉建築設計事務所
 構造設計：小西泰孝建築構造設計
 施工担当：佐々木、八幡
 竣工：2012 年 11 月

①南側外観②2階オフィスの窓際。樹木の緑と室内のインテリアが落ち着いた空間を生み出す③1階エントランスホール。アプローチから入口までは化粧型枠の外壁で半屋外空間を設けている④1階ショールーム。商品を買うことも出来る⑤2、3階はスタッフのオフィススペース⑥地階は食堂と会議室。南北両方向にドライエリアがある⑦3階エレベーターホールを出るとすぐにシンボルツリーが見える。什器は以前の事務所のものを引き続き使っている⑧窓から見えるシンボルツリーはクスノキ

一歩踏み出す勇気が出会いをつかむ

社寺工舎 代表 宮大工 菊池恭二



著書『『宮大工の育て』—木も人も「癖」があるから面白い』（祥伝社新書）

Kyoji Kikuchi



菊池恭二 氏

撮影：アック東京

今月は、グループ企業の池田建設株式会社安全推進大会の記念講演に登壇された、宮大工の菊池恭二氏にご登場いただきます。菊池さんが、「法隆寺の鬼」と呼ばれた故西岡常一棟梁の元で修行を始めたのが、21歳のとき。薬師寺金堂の再建工事です。その工事現場を請け負ったのが池田建設でした。現在は、日本屈指の宮大工として現場を指揮される一方、後進の指導にあたられています。NHKプロフェッショナル「仕事の流儀」にも出演されました。護国寺の月光殿(国指定重要文化財)の工事を手がけるなど、今も池田建設とのご縁は深いそうです。(現場棟梁は長男の菊池寛明氏)講演の内容を再構成してお伝えします。

菊池：大工になったきっかけは、高校受験に失敗したときですね。父が「実家を建ててくれた大工の千葉さん」のところにいくように勧めたのです。4歳年上の兄も千葉師匠の元で修行していました。

大工修行、さて何も出来ない者は、どうやって仕事を覚えるか。それはまず「人の真似」なんです。いつも箒と塵取を手から離さず、大工の手元として、言われたらすぐに行動する。職人の邪魔にならないように、整理整頓、片付けを徹底する。伸びる新入りの持つ要素は「あきない」「まじめ」「素直」の3つなのです。地道に毎日、そのことだけに没頭することが大切です。当時は、私と同じように修行している若い大工は遠野全体で30人くらいで、修行の合間に地域の技術講習の勉強会があり、それが楽しみでした。そこでいい成績を収めた私は、技能競技会の県大会に出たこともあり、そのせいか多くの同期は5年が年季明けでしたが、私は3年で身上がりを許されました。しかし年季奉公があげたからと言って、仕事がすぐにあるわけではありません。たまたま知り合いの大工さんに地元の福泉寺の鐘楼堂の新築工事に誘われて手伝うことになりました。19歳の夏、これが社寺建築との出会いでした。

社寺建築では、住宅ではあまり使わない丸柱、材木も檜や杉などのほか、高価な樺や檜葉(ヒバ)なども使います。また社寺建築の建物には「木割」という約束事があります。「この規模の寺なら、このサイズの部材寸法」と最適の大きさの約束事が決まっているのです。「原寸図」にも驚きました。図面をもとにベニヤなどに型取りし、それに合わせて実際に墨付けをして刻むのです。洋服の型紙のようなものです。鐘楼堂は3ヵ月後に落慶しましたが、私は、すっかり社寺建築に魅了されてしまいました。

あるとき、地元の福泉寺に顔を出した折、住職の奥さんが奈良薬師寺の名物管長、高田好胤氏の著書『心』を貸してくれたのです。高田氏はテレビにも出ている文化人でしたが、実は「薬師寺金堂復興勸進」を発願して、金堂を再建しようとしていました。心のうちに「ぜひこの仕事にかかわりたい」という気持ちが湧きあがってきました。

お盆休みに入るとすぐに遠野から奈良へ向いました。薬師寺金堂の再建現場はすでに下層の建方が終わっていましたが、朱塗りの柱が仮屋根の覆いの隙間から見えます。「何とかここで働きたい。ダメもとでいいから頼んでみよう」といってもたってもいられなくなり、「棟梁は法隆寺の西岡常一さん」と聞いて、すぐにその足で法隆寺を尋ねました。日本屈指の宮大工ということも知らなかったのですから、怖いもの知らずですね。自宅を教えてもらい、門をたたきましたが1時間ほど待たされました。ちょうどNHKが取材に来ていたのです。西岡棟梁は「宮大工じゃ食えんぞ」と言いながら、薬師寺への推薦状を書いてくれました。日本全国から37人の腕自慢の大工が集まっており、私はその中の最年少、21歳の夏でした。

この後足掛け7年間、私は西岡棟梁の元で「お茶出し」をしながらか大工修行に励みました。朝5時半に起きて「原寸場」や「加工場」の掃除、宿舎に戻って7時に朝食をとった後、7時半に現場で棟梁を迎え、お茶を出します。自分も現場で仕事をして、夕方5時、再び仕事を終えて原寸場に戻ってきた棟梁にお茶を出します。棟梁や副棟梁の朝夕の打ち合わせを脇で聞くことが出来たことは私の大工人生の宝です。段取りだけでなく、先輩の大工の歩んできた話、人生観も聞けました。

また普通の職人は入ってこれない原寸場にも出入りできたことも幸運でした。原寸が描けなければ、社寺建築は始まりません。毎日棟梁たちの仕事を見て、夜は設計図の模写の練習までやらせてもらいました。模写を続けることで、細部の構造もわかるようになりまし。いつも仕事について考えている、どうしてもわからない事を胸に蓄積していると、いつか解けることがある。そういう思いが人の質を、知識を高める秘訣なのです。質問を棟梁にしても「よう考えなはれや」と突き放されつつも、かわいがってもらいました。

昭和51年4月、金堂が完成して、大工は皆解散となりましたが、私は引き続き池田建設に残され、西塔の工事の前に町田の現場にも行き、今度西塔の原寸場に入って仕事することになりました。一番大事な中樞です。そして自分で原寸図を引くことができるようになりました。副棟梁が引っ張りあげてくれたのです。大工は、頭の中で三次元の立体がイメージできなければ、一人前の大工にはなれません。それが出来れば手順として、先が読めるようになります。

結局、人と人の付き合いをいかに濃くして、自分のものとして吸収できるか、それが仕事を早く覚える秘訣だと思います。廻りの人が助けてくれるのも、「こいつはできるな」と、人を見ての話です。人生には岐路があります。「宮大工になる」という気持ち一筋で、西岡さんという素晴らしい師匠と出会えた。一歩踏み出す勇気があれば、そういう人と出会えるんだよ、と若い人には伝えたいですね。

「今は40代の大工が少ない。10年後、在来工法建築が出来る大工は半分になってしまうでしょう」

菊池恭二

- 1952年 岩手県遠野市生まれ
- 1967年 中学卒業後、遠野で住宅大工の修行を始める
- 1973年 21歳から約6年間、法隆寺の大工、故西岡常一棟梁の元で薬師寺金堂、西塔の工事に携わりながら、社寺建築を学ぶ
- 1990年 38歳で社寺専門の工務店「社寺工舎」を創業
- 1997年から4年半かけて、池上本門寺の全解体保存修理工事の指揮をとる

日本全国の社寺建築の建立や文化財建造物の保存修理を指揮しながら、弟子の育成にも力を注ぐ

池田建設株式会社安全推進大会にて、池上本門寺の五重塔の改修工事のビデオをバックに流しながらにこやかに語る菊池氏



「GLACIEL (グラシエル)」 内覧会開催 7月4日

表参道ヒルズの大通りをはさんで向かい側、少し小路に入ったところに、このたび弊社施工で、アントルメグラッセ・生グラス(生アイス)専門店「GLACIEL (グラシエル)」が竣工しました。オープンに先立ち、建物のお披露目と、メニューの試食会を兼ねた内覧会に行ってきました。

日本では、まだなじみの薄いアントルメグラッセは、ヨーロッパでは「リッチなデコレーションケーキ」として、夏だけでなく年間を通して親しまれています。

シェフパティシエは、フランスの名店パティスリーで修行を積んだ江森宏之氏。季節に合わせたアントルメグラッセが、毎日厳選 20 種、店頭に並びます。

店名となる「GLACIEL」は、フランス語でアイス職人を意味する「グラシエ」、アイスを意味する「グラス」、空を意味する「シエル」を組み合わせた造語。店舗には厨房はもちろん、カフェも併設し、その場でアントルメグラッセを味わえるようになっています。

また「生グラス」は作りたてのアイス。濃厚な食感とフルーツやチーズなどの組み合わせがほんとに美味しいアイスクリームです。カップ、またはコーンが選べ、イートイン、テイクアウト、どちらもOK。店内ではコンフィチュール(ジャム)や焼き菓子も販売、贈答用の発送も承っています。

7月7日、グランドオープンです。スイーツ好きの方は、ぜひ1度訪れてみてはいかがでしょうか。



フリユールージュ
ベリーとマスカルポーネの贅沢なアントルメグラッセ。側面の赤い点の生地がキュート



所在地：渋谷区神宮前 5-2-23

構造：鉄骨造

規模：地上 3 階

用途：店舗

店舗設計：松本真二/アカンブリッシュ

設計：美和小織/LITTLE

竣工：2013年7月

<http://www.glaciel.jp/>

火曜日定休

*建物については、次号以降で、詳しくお伝えします。



「TN-house が『新建築 住宅特集』7月号 Vol.327」に掲載されています

先月、「ShinClub 159」でご紹介した、「TN-house」の写真が表紙を飾っています。ぜひご覧ください。

所在地：杉並区

構造：RC造 規模：地上3階

用途：専用住宅

設計・監理：安藤毅/エアスケープ建築設計事務所

構造：T&A アンシエイツ

竣工：2013年2月



「M5 新築工事」 地鎮祭 6月1日(土)



桜新町の閑静な住宅街に建つ
1Fがテナント、2Fが賃貸、
3,4Fがオーナー邸の建物です。

構造：RC造
規模：地上4階
用途：共同住宅
設計・監理：内海智行
/ミリグラムスタジオ
完成予定：2014年2月

「新富士ビル 新築工事」 地鎮祭 5月30日(土)



品川駅前に、飲食関係のテナントビルが建ち上がります。入居テナントは全て確定しました。

構造：S造
規模：地上9階
用途：店舗
設計・監理：HOU 一級建築士事務所
完成予定：2014年1月

編集後記

・猛暑の季節がやってまいりました。熱中症対策には、水分補給と、ときにはおいしいアイスクリームをいただくというのもいいものです。

(株)辰 通信 Vol.160 発行日 2013年7月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男

東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: <http://www.esna.co.jp>